

テーマ展「民窯湖東焼の彩り－絵付師自然齋－」展示作品リスト

番号	名称	数量	作者	時代	所蔵
絵付師 自然齋					
1	自然齋像	1幅	中島安泰	江戸時代後期 文久3年(1863)	個人
2	白磁乳鉢(自然齋所用)	1口		江戸時代後期～明治時代	個人
3	印章(自然齋所用)	3箇		江戸時代後期～明治時代	個人
4	焼付絵窯元鑑札	1枚		江戸時代後期 安政3年(1856)	個人
5	焼付絵窯元株掟書	1枚		江戸時代後期 安政4年(1857)	個人
6	図案・下絵(自然齋所用) 絵付図案集(湯呑等) 図案集(獅子図等) 山水図下絵	1冊 1冊 1枚		江戸時代後期～明治時代	個人
多彩な模様					
7	赤絵金彩四方形唐人物花鳥図火鉢	1基	自然齋	江戸時代後期	当館(河本英典氏寄贈資料)
～山水～					
8	色絵山水図火入	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
9	赤絵金彩山水図墨床	1基	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
10	赤絵楼閣山水図徳利	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
11	赤絵金彩山水図酒盃	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
12	色絵楼閣山水図桃形向付	2枚	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
13	色絵山水人物図蓋物	1合	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
～花卉草木と鳥獸～					
14	色絵花卉図蓋置	1箇	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
15	色絵菊に小禽図蓋置	1箇	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
16	赤絵金彩花鳥図六角茶巾筒	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	当館(井伊家伝来資料)
17	赤絵金彩四方形耳付鳳凰図香炉	1合	自然齋	江戸時代後期～明治時代	当館(河本英典氏寄贈資料)
18	赤絵金彩菊に小禽図桔梗形香合	1合	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
19	赤絵金彩松鷹図急須	1合	自然齋	明治時代 明治5年(1872)	個人
20	赤絵金彩花鳥図急須	1合	自然齋	明治時代 明治5年(1872)	個人
21	赤絵金彩名花十友図煎茶碗	5口	自然齋	明治時代	個人
22	赤絵金彩蘭図煎茶碗	5口	自然齋	明治時代	個人
23	赤絵金彩花卉図徳利	1対	自然齋	江戸時代後期 慶応3年(1867)	個人
24	赤絵蘭図酒盃	1口	自然齋	明治時代 明治元年(1868)	個人
25	赤絵蘭竹図小皿	1枚	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
26	赤絵金彩花卉図湯呑	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
27	赤絵秋草蝙蝠図燗台	1基	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
28	赤絵名花十友図高坏	1基	自然齋	明治時代	個人
29	染付赤絵金彩四獸透彫香炉	1合	自然齋	江戸時代後期～明治時代	当館
30	赤絵金彩龍図小皿	5口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
～人物～					
31	赤絵金彩竹林七賢人図水指	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	当館(河本英典氏寄贈資料)
32	赤絵金彩唐人物図六角鉢	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
33	赤絵金彩唐人物図鉢	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	当館(河本英典氏寄贈資料)
34	赤絵唐人物図小皿	1枚	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
35	赤絵金彩唐人物図急須	1合	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
36	赤絵金彩六歌仙図酒盃	1口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人
37	銀地赤絵金彩六歌仙図酒盃	1合	自然齋	明治時代 明治5年(1872)	個人
38	色絵唐人物盃	7口	自然齋	江戸時代後期～明治時代	個人

作品解説

1 焼付絵窯元株 掟書 一面 (作品リストNO. 5)

やきつけ え かまもとかがおきてがき

縦27.3cm 横43.2cm

江戸時代後期 安政4年(1857)

個人蔵



安政4年(1857)正月、彦根藩の普請方が、自然齋ら4名の絵付師に絵付の窯元権^{ふしんかた}を与えるにあたって定めた掟の書付。

藩から御用を命じられた時には大切に勤めるべきことや、窯元権を譲渡する際には村役人と他の3名の絵付師の承諾が必要であること、藩の許可なく絵付・焼付を行っている者がいたら知らせることという3箇条の掟が記されています。民間での絵付が、具体的にどのように許可されたかを示す貴重な内容の掟書です。

2 絵付図案集 1冊 (作品リストNO. 6)

えつけず あんしゅう

自然齋所用

縦28.1cm 横19.9cm

江戸時代後期～明治時代

個人蔵

湯呑や花生の下絵を収めた図案集。器の輪郭を描き、その側面の絵柄の展開を、輪郭からはみ出すように細かな筆線で表わしています。表紙には、「自然齋」の瓢型印と彼の号である「誠有」の方印が捺されており、彼が用いた図案集であることが分かります。



3 赤絵金彩四方形唐人物花鳥図火鉢 1基 (作品リストNO. 7)

あかえ きんさい よほうがたからじんぶつ ちょうず ひばち

自然齋絵付

胴最大幅22.3cm 高19.4cm

江戸時代後期

当館蔵 (河本英典氏寄贈資料)

丸みを帯びた四方形の胴に耳を付け、赤絵金彩の技法で唐人物図や花鳥図の絵付を施した火鉢。口縁や脚などにも青海波文や龍文、花七宝文などを細密に描き込み、華やかに仕上げた作品です。胴に、「琶湖／自然齋陶」という銘が入れています。



4 ^{いろ え きんさいず ひいれ}色絵山水図火入 1口 (作品リストNO. 8)

自然齋絵付

口径10.2cm 高8.5cm

江戸時代後期～明治時代

個人蔵

色絵の手法で山水図を描いた火入。山間を流れ落ちる滝や橋上の人物、農村の家屋などを濃彩の色絵で描き出しています。胴の余白に、「湖東／自然齋陶」の銘が記されています。



5 ^{あか え きんさいまつたか ず きゅうす}赤絵金彩松鷹図急須 1合 (作品リストNO. 19)

口径5.8cm 高8.6cm

自然齋絵付

明治時代 明治5年 (1872)

個人蔵

赤絵金彩の技法で、松にとまり羽を広げる鷹を描いた急須。胴の余白に「壬申清明／雪香亭／主人写」と赤絵で記されており、明治5年(1872)3月の作と分かります。絵付の筆遣いは力強く緻密であり、この頃の自然齋の作風をうかがい知ることができます。

この頃、藩窯はすでに廃止され、窯と窯道具一式の払い下げを受けた山口喜平が、湖東焼の制作を行っていました。この作品は、喜平の窯で作られた素地が用いられたと考えられます。藩窯期の凝った形態の作品などに比べると、把手の形などに形態の単純化が見られ、藩窯から喜平の窯へ変わったことによる作風の変化を読みとることができます。

「雪香亭主人」は、自然齋が用いた号の一つで、明治2年(1869)、自然齋が商う旅館に、彦根藩小参事の太音龍太郎が訪れた際、庭に梨の花が満開であり、一面に白雪が降り積もっているように見えたことに因んで、雪香亭と名付けたことに由来すると伝えられています。

